



南太平洋数千mの海底下の土から採取された1億年前・白亜紀の微生物に栄養と酸素を与えたら活動を始めたという報告が国立海洋研究開発機構(JAMSTEC)からありました。現在のウィルスについても、冷静に、謙虚に考えなければならぬことを教えてくれているようです。

## 先人もウィルスと闘った

わが国の近代前半期の伝染病の様子をまとめてみました。■は特に流行が多かったものです。

西暦	和暦	コレラ	天然痘	チフス	他	市域の様子	備考
1877	明治10	■					西南戦争
1878	11						
1879	12	■					
1880	13						
1881	14						
1882	15	■					
1883	16						
1884	17						
1885	18	■	■				
1886	19	■	■				
1887	20						
1888	21						
1889	22						
1890	23	■					
1891	24						
1892	25		■	■			
1893	26		■	■			
1894	27		■	■			日清戦争 下関条約
1895	28	■					
1896	29		■	■	赤痢		
1897	30		■	■		祭礼、供養、興行、盆踊り禁止	伝染病予防法
1898	31		■		■	県、社寺に仮隔離病舎設営指示	水害発生
1899	32		■		■		
1900	33				■	仮隔離施設が設営される	
1901	34				■	衛生講習会(天嶽寺)	
1902	35	■					
1903	36						
1904	37				■		
1905	38				■		日露戦争 ポーツマス条約
1906	39						
1907	40				■		
1908	41		■				
1909	42						
1910	43						
1911	44			■			
1912	大正元年				■		
1913	2				■	越ヶ谷・大沢地区隔離病舎建設	
1914	3				■		第一次世界大戦
1915	4				■	蒲生村外二ヶ村組合隔離病舎落成	同上
1916	5	■				大袋村外二ヶ村組合隔離病舎建設	同上

この時、全国の感染者は105786人、死者は8027人。  
埼玉県では感染者635人、死者は366人で、死亡率が57.6%でした。

### 隔離病舎の建設

明治30年代前半、各町村には県(郡役所)から隔離病舎建設を申請するよう、促されました。ある村では費用概算を出したり病舎の間取りを試行錯誤した様子が見られます。

間取り図には管理棟と病棟が別棟で、病室は快復者用、軽症者用、重症者用に分けられ、さらに別棟には遺体安置室もありました。複数の村が共同で設立しようと試みました。

けれども意見の相違、反対の声や資金難により建設はなかなか進まず、郡から何度も督促を受けるなど、地元の人々の葛藤が当時の史料からうかがえます。

赤痢

ペスト

### 土葬から火葬へ

明治31年10月7日付で郡役所から各町村に伝染病死者の火葬状況を報告させる文書が届きました。

ある村では次のように報告しています。

赤痢病患者数10人 内、死亡者6人

火葬の村費負担額 91円50銭

患者家負担額 109円50銭

疾病の性質上、村から費用の一部(約45%)を出すことで火葬を広めようとしたのでしょう。(都市部では墓地が狭くなったことも一因でした。)

赤痢

1917	6				
1918	7			■	
1919	8			■	
1920	9	■			■

スペイン風邪

\*この表は「神戸検疫所の歩み」、「越谷市史二」、「(越谷市)近現代資料No.819,1000,1001,1009」等から作成しました。

第一次大戦	ロシア革命
同上	シベリア出兵
	ベルサイユ条約

右の写真は大正4年に「蒲生村外二ヶ村組合隔離病舎」が落成した時の様子です。制服で写っているのは警察官です。当時、公衆衛生を管轄するのは内務省で、それに関して対処するのは警察の仕事でした。コレラで亡くなった人の火葬には警察官が立ち会ったという記録があります。

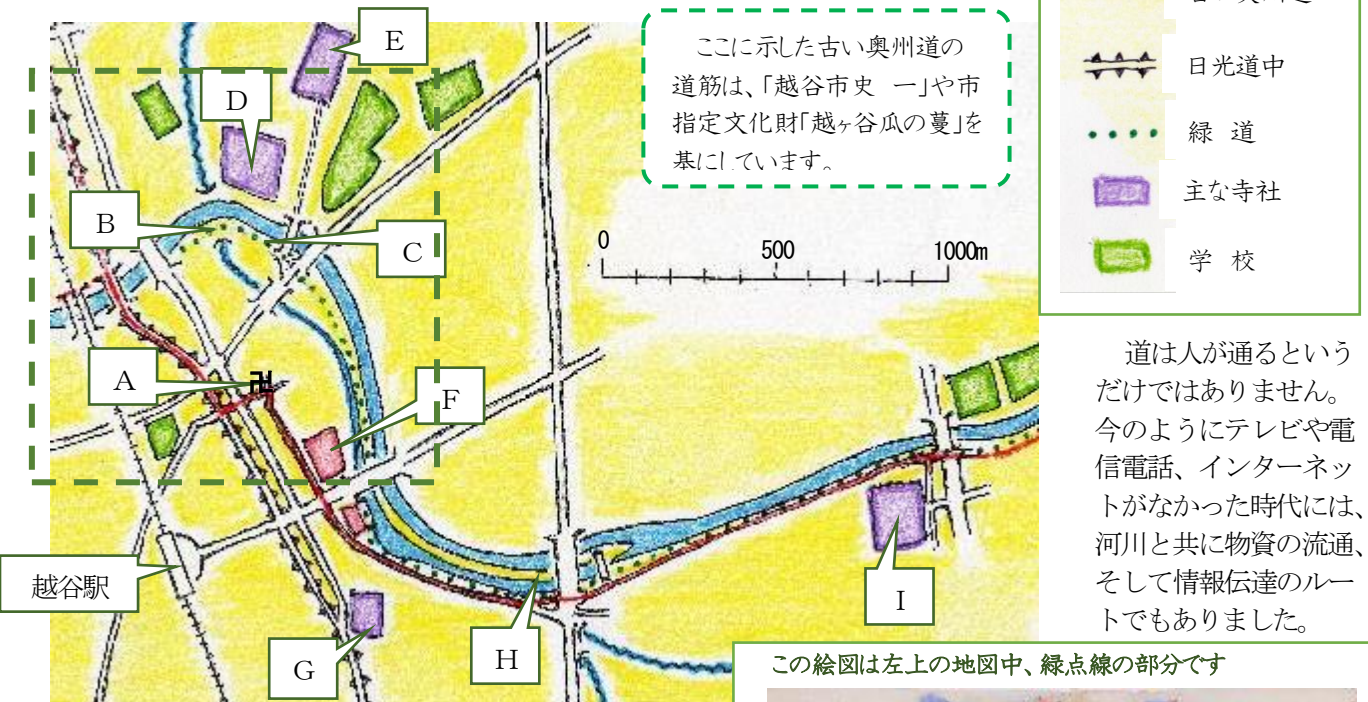


毎年のように、しかも時には複数の疫病が流行したことも珍しくありませんでした。結核も現代より困難な伝染病でした。非常に限られた条件の中で、先人たちは疫病と闘ってきたことがわかります。

## 古の奥州道

日光道中が整備された江戸時代よりも前は、東北に向かう道はどこを通過していたのでしょうか。以前市史編纂に携わった方々やその後も有志の郷土史を研究する方々によって、徐々に明らかになっています。

次の地図で市域を通るその道、古い奥州道の一部の様子をご覧ください。



道は人が通るというだけではありません。今のようにテレビや電信電話、インターネットがなかった時代には、河川と共に物資の流通、そして情報伝達のルートでもありました。

この絵図は左上の地図中、緑点線の部分です



「越ヶ谷宿村絵図」

(これは市HPのデジタルアーカイブ(試行版)で見ることができます。)

かつての街道を明らかにすることは、その地域が世の中全体とどのように関わり変化を遂げてきたか、そのエネルギーはどこにあったのかなどを解き明かすことにつながります。

- A : 観音堂    B : 建長銘の板碑～本市最古 (1249年) の板碑
- C : 「興亜の桜」～ "皇紀二千六百年 (1940年・昭和15年)" を記念して植樹された桜    D : 天嶽寺～文明10年 (1478年) 開山
- E : 久伊豆神社～武士団(私市党)の守り神。今も地域の信仰を集める。
- F : 市役所    G : 照蓮院～武田勝頼の遺児千徳丸の墓所
- H : 瓦首根溜井・河岸場跡～物資流通の要地
- I : 大聖寺～奈良時代開山 (750年) の市域最古の古刹